

第17回「シティ OL-AID」回収結果報告

全国のシティ読者のおかげで 44万2317円が集まりました

全国のシティリビングネットワークが共同で行っているボランティア活動「シティ OL-AID」。2007年1月下旬～8月上旬に実施した第17回では、44万2317円が集まりました。今回はその集計結果と併せて、「OL-AID」で回収された切手などの収益がどのように役立てられているのかを紹介します。

次の回収は2008年1月23日(水)必着!

第18回「シティ OL-AID」の回収を実施します。これまでに集まった使用済みの切手、プリペイドカード、メータースタンプを、シティ編集部へ郵送するか、直接持参してください。

※直接、編集部へ持ち込む場合は、できるだけ事前に日時を編集部へ電話連絡してください。来社は平日の午前9時30分～午後7時の間にお願いします

回収物

使用済みの切手、プリペイドカード（社員食堂のカードや、ジムなどのロッカーカードは除く）、メータースタンプ(右写真)

回収するときのポイント

- 切手は消印も入るように切ってください
- 切手とメータースタンプは、日本のものと外国のものを分けてください(プリペイドカードは一緒で可)

あて先

〒100-0005 千代田区丸の内3ノ4ノ2、新日石ビル3階、シティ編集部「OL-AID」回収係



第17回「シティ OL-AID」回収結果

使用済み切手	※買い取り額	日本切手1100円/1kg、外国切手3000円/1kg
日本切手	359kg	→ 39万4900円
外国切手	2.87kg	→ 8610円
使用済みプリペイドカード	8万7023枚	→ 3万6579円
使用済みメータースタンプ		
日本メータースタンプ	3.28kg	→ 1968円
外国メータースタンプ	0.26kg	→ 260円

合計 44万2317円

(2007年1月下旬～8月上旬回収分)

「シティ OL-AID」は、全国のシティリビングネットワーク(札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・京都・大阪・福岡)が共同で行っているボランティア活動。オフィスで不用になった国内外の使用済み切手やプリペイドカード、メータースタンプを、アジア・アフリカ・中南米などの開発途上国で国際協力を行っている財団法人ジョイセフ(家族計画国際協力財団)に寄付します。

次回、第18回の回収は来年の1月に実施! これからもシティ OL-AID をどうぞよろしくお願いいたします。

「シティ OL-AID」は、活用してもらったもの。2007年1月下旬～8月上旬に行った第17回の回収では、合計44万2317円という結果に! 協力してくれた全国のみなさん、本当にありがとうございます。

オフィスで不用になった切手やカードで国際貢献

参加オフィスも随時募集中

ちょっとした心がけでできるボランティア「シティ OL-AID」の参加オフィスは随時募集中。みんなも協力してね。 ※参加の際は必ず会社の承諾を得てください

応募方法 会社名・部署名・住所(〒)、電話番号、代表者(お世話係)の氏名、設置予定場所、必要なボランティアBOXの個数を明記して、「OL-AID」係へ下記ファクスで申し込みを。折り返し、BOXと詳細を郵送します。 ※応募状況により発送に1カ月程度かかる場合があります

応募ファクス FAX 03(5208)4521

※ファクスは0発信かどうか確認して送信を

問い合わせ シティ編集部 ☎03(5208)4520

It is made use in this way

「シティ OL-AID」がこんなふうに使われています

クリニックの建設

無医村だったタンザニアのムフンブエ村では、病人は約7km離れた病院に行かなくてはなりません。そこで新たなクリニックの建設が計画され、村人の意見を反映しながら完成。今では病院のない近隣地域からも1時間以上かけて通院する人がいるほど利用されています。今後も機材の充実など、現地の人たちの要望を取り入れながら、クリニックを拡大していく予定です。



村にクリニックができるまでは、未舗装の道路を何時間もかけて遠方の病院まで搬送

クリニックの建物には、日本郵船から寄贈されたコンテナを使用



保健ボランティアの支援

母子の健康を守るため、安全な出産をすることは大切。そこで正しい出産をするための知識を、現地の保健ボランティアに指導しています。妊産婦の死亡は不衛生な環境での出産が原因だということを理解してもらい、衛生的な道具を使った出産方法をレクチャー。また、移動の足となる自転車の提供も行っています。



保健ボランティアへの指導を通して、きれいなタオルや使い捨てのカミソリなど、衛生的な道具での出産助が行われるように

研修によって正しい知識を身に付けた伝統的な助産師は菌が入らないよう、出産助時には医療用の手袋をはめるようになったそう

